

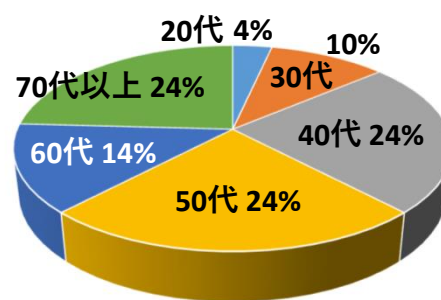
# 令和6年度 「国有林モニターアンケート」調査結果

近畿中国森林管理局では、国有林モニターにご登録いただいている皆さまから、今後の国有林野の管理経営や広報活動の参考にさせていただくために、以下のアンケートにご協力いただきました。

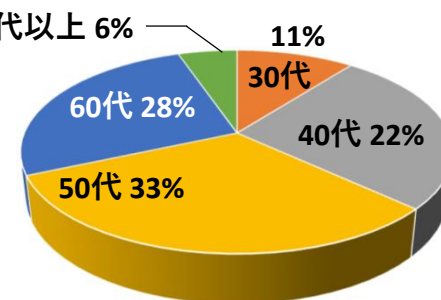
※パーセンテージ（％）表示は、小数点以下を四捨五入している都合上、合計が100%にならない場合があります。

調査時期	令和6年7月
調査方法	アンケート用紙の郵送による回答及び専用フォームからの回答
回収状況	アンケート依頼モニター数 78名
	アンケート回答者数 48名
	アンケートの回答率 62%

内 訳



男 性



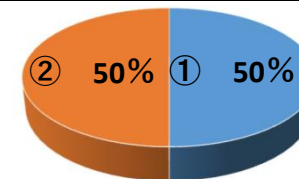
女 性

ご回答いただいたモニターの年代別構成 (人)

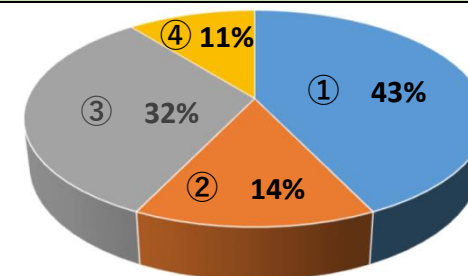
区分	男性	女性	計	割合
20代	1	0	1	2%
30代	3	2	5	10%
40代	7	5	12	25%
50代	7	6	13	27%
60代	4	5	9	19%
70代以上	7	1	8	17%
計	29	19	48	—
全モニター数 (未回答者含む)	45	33	78	—

年代別回答者数

質問1 国有林を身近な存在として感じられますか。次の中からお選びください。		
番号	回答	回答数
①	国有林を身近に感じられる	24
②	国有林を身近に感じられない	24
計		48

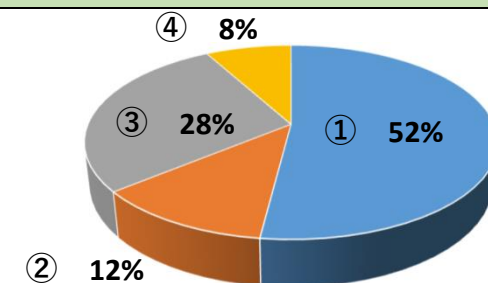


質問2 質問1で「国有林を身近に感じられる」とご回答された皆様にお伺いします。そのように感じられた理由を以下からお選びください。		
番号	回答	回答数
①	居住地周辺に国有林があるため	12
②	普段から趣味などで国有林を利用しているため	4
③	国有林の情報・役割を知っているため	9
④	その他の理由	3
計		28



※複数回答された方を含みます。

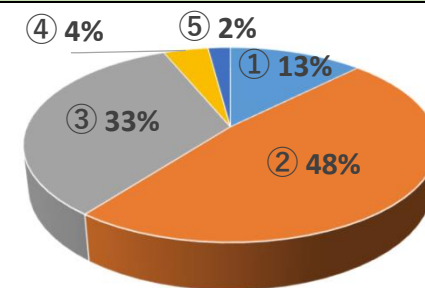
質問3 質問1で「国有林を身近に感じられない」とご回答された皆様にお伺いします。そのように感じられた理由を以下からお選びください。		
番号	回答	回答数
①	どこに国有林があるか分からない・民有林との違いが分からないため	13
②	どのように管理・利用されているか分からないため	3
③	一般には立ち入れない等の閉鎖的なイメージを持っているため	7
④	その他の理由	2
計		25



国有林に関して、「身近に感じられる」、「身近に感じられない」と回答された方は共に同数という結果になりました。「国有林の役割・情報を知っている」というご意見が挙げられている一方で、「どこに国有林があるか分からない」、「閉鎖的なイメージを持っている」等のご意見も多く寄せられたところです。

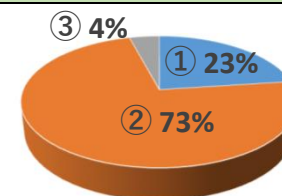
こうしたご意見が挙がっている現状を踏まえ、より一層、広報活動や情報発信を進めてまいります。

質問5 重点取組事項の全体的な分かりやすさ（読みやすさ）について、当てはまるものをお選びください。		
番号	回答	回答数
①	非常に分かりやすい	6
②	分かりやすい	23
③	普通	16
④	分かりにくい	2
⑤	非常に分かりにくい	1
計		48



質問5の選択理由	
①	写真も多く掲載されており、読みやすいよう工夫されていますが、林野庁やその取組に対して、もう少し親しみを感じられる工夫があると良い。
②	写真が多用されていて、分かりやすくまとめられている。今後も、誰もが見て分かるようにしていただけると、より関心を持つことができると思う。
②	絵などが多くとより嬉しい。
②	重点取組事項が国有林の保全活動だけではなく、災害対応、獣害対策、民有林との連携など、想像以上に多岐にわたっており、日々の対応、対策の大変さが伝わってきた。
③	目次をもう少し細分化してみると、理解しやすくなると思う。 例えば、「1 公益重視の管理経営の推進等の内容」がどのようなものが目次で分かるように、見出しを4つ5つ書いてみると全体像が理解しやすいと考える。
④	専門用語とアルファベットの略語が多く、理解しづらい。略語にはかっこ書きで何の略語なのか、またその言葉の意味の説明が必要だと感じた。

質問6 重点取組事項の情報量について、当てはまるものをお選びください。		
番号	回答	回答数
①	情報が多すぎる	11
②	適切な情報量である	35
③	情報量が少なすぎる	2
計		48



質問6の選択理由	
①	情報が多すぎて、全部読もうという気にならない。要点だけに絞ってシンプルな資料にすべきだと思う。
①	もっと情報を絞って（文字を少なくして）分かりやすくした方が良い。
②	それぞれの情報について、より詳しく知りたい人向けには詳細についてのリンク（QRコード）があれば良いと思った。
②	難しい内容や言葉があるが、写真や図などが多く掲載されており、理解の助けになると同時に、より興味を持って見ることができた。
③	取組方法とその実施期限、そして年度末にそれらを確認する方法の具体（いつ誰が等や数値目標の設定等）が明示されていた方が分かりやすい。
<p>「分かりやすい」、「適切な情報量である」というご意見を多くいただきました。今回いただいたご意見を踏まえ、来年度以降も引き続き内容の充実及び見やすい紙面を心掛け、当局の取組を分かりやすく発信するよう努めてまいります。</p>	

質問7 重点取組事項で特に興味深かった項目を以下からお選びください。			
番号	回答	回答数	
①	国土強靱化への取組	11	
②	生物多様性の保全	17	
③	林産物の安定供給・利用	13	
④	花粉症対策に向けた取組	18	
⑤	林業の低コスト化・省力化に向けた取組	15	
⑥	鳥獣害対策の推進	16	
⑦	デジタル技術の活用推進	9	
⑧	民有林関係者への技術的支援	10	
⑨	担い手育成機関及び教育機関への支援	19	
計		128	

### 質問7の選択理由

- ①③⑥⑦ 毎年どこかで川が氾濫した、山が崩れたというニュースを目にする昨今、災害に強い国土づくりを早急に実現する必要がある。
- ②⑥ 獣害被害が多く、食害により（特にシカの被害）林床の変化が激しいため、以前の林床状態が保たれなくなっている。早急な対策をしなければ、生物多様性の看板はあげられない。
- ③⑥ 需要と供給のバランス維持のためにも、常に木材を安定して供給することこそ必要だと感じた。  
また、森林だけでなく、田畑もイノシシやシカ等の有害鳥獣被害が甚大であるため、低コストで効果が高く、簡単に設置できる対策がより必要だと感じた。
- ③④⑤⑧ 国有林や民有林は人の手を入れて、元気な森を再生して、かつそれを維持していかなければいけないことを痛感しています。そのためには林業に従事する人や企業家の確保や育成が不可欠です。林業で生計が十分成り立つ仕組み作りが急がれます。
- ⑨ 花粉症で困っている人は本当にたくさんいると思う。花粉の少ないスギ品種があることをまず知らなかった。花粉の少ない苗木の植替えによって、暮らしやすくなる人々が増えれば、生活の質も上がっていくだろうし、仕事にも集中できてよいと思う。
- ④⑤⑧⑨ スギ等の花粉症が社会問題になっている中で、花粉の少ない苗木の開発や増産など、人と自然が調和した森林づくりに興味がある。
- ⑦⑧⑨ 林野庁の取組を広く知らせて若手に興味を持ってもらうことが大切で、先を見て若手を育てていくことが大切だと思う。

「花粉症対策に向けた取組」及び「担い手育成機関及び教育機関への支援」へのご関心が高い結果となりました。

花粉症対策については、昨年5月には「花粉症対策の全体像」が取りまとめられ、対策の方針が示されたことから、これに基づきスギ人工林の伐採及び花粉の少ない苗木への植替え等を促進してまいります。

また、林業大学校をはじめとした各種教育機関へは、講師の派遣や実習フィールドの提供等を通じて、引き続き支援を行ってまいります。

質問 8

これまでお送りした「重点取組事項」以外の資料において、特に関心のある森林・林業に関連したトピックについて。  
(多く寄せられたトピックについて掲載しています。)

(森林環境税について)

- ・この税が何にどのくらい使われているのか、それが適正なのかが分かるようにしてもらいたい。
- ・安定した財源の確保ができるため、森林の防災機能や生態系保全、CO2吸収など、多様な機能を維持・強化する取組を進めることができると感じている。また、国民が森林の重要性や森林保全の必要性について理解を深める良い機会が増えるとも考えている。ただ、使途の透明性や説明責任については、さらに改善の余地があるように思える。

(花粉症対策について)

- ・長年の花粉症の苦しみからいつか解放されるのではないかと期待が持てるトピックだった。ぜひ、自分自身もこの事業に関わってみたいと感じた。
- ・花粉の飛散が少ない苗木があるということを初めて知った。こういった取組を積極的にPRさせていただきたいとも感じた。

(林業従事者の確保について)

- ・人口減少でどの業界も人材不足の中、国土の維持管理に興味を持ち、仕事にする若者を育てる取組をどのようにしているのか興味を持った。

(相続登記の義務化について)

- ・相続登記が長期間されておらず、持ち主不明の家屋や森林などが問題になっていると最近ニュースなどで見た。なぜ今まで法律がなかったのかと疑問に思う。

森林環境税及び花粉症対策について関心を持っているとのご意見を多数いただきました。なお、お住まいの自治体等で森林環境税がどのような使途に使われているかについては、法律でその公表義務があることから、各自治体のHPにて内容を確認することが可能です。

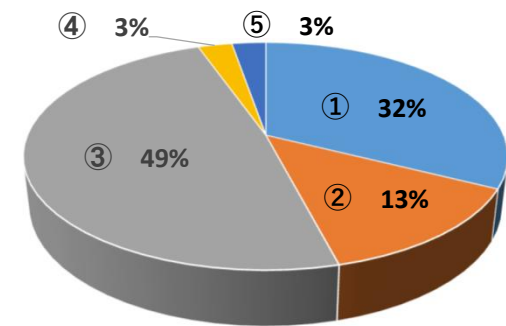
また、花粉症対策につきましては、先に述べましたとおり、スギ人工林の伐採及び花粉の少ない苗木への植替え等を促進してまいります。

質問9 国有林野事業の中で特にご関心のある分野について、以下から2つお選びください。			
番号	回答	回答数	
①	治山事業	20	
②	木材生産事業	16	
③	鳥獣害対策	17	
④	保護林・緑の回廊	17	
⑤	林道事業	5	
⑥	レクリエーションの森	17	
⑦	その他	1	
計		93	

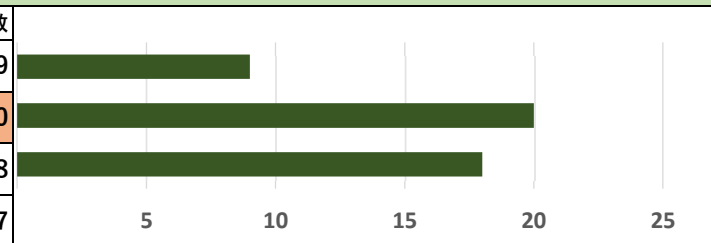
※無回答、単一回答、3つ以上回答された方を含みます。

質問9の選択理由	
①③	街中でもクマが出没することが増えていること、イノシシの被害も多くなっていることから、対策が必須と考えるため。
①⑥	日本は地震や降雨による災害が多い国なので、危険な場所に前もってできる対策が必要であり、被災後の復旧も必要であると考えたため。 また、国有林が国民にとって身近なものとして利用できる取組が必要だと思つたため。
②⑤	積極的な木材搬出のみならず、市場での木材利用促進を進めていくことが重要であり、そのためには、伐り出しのための林道整備等が喫緊の課題の一つだと考えるため。
③	人と獣の生活圏が重なる部分で、クマの被害や、サルやシカの農作物被害が頻発しているように感じるため。
④⑥	森林を活用する人間と動物が、共に共存できる政策が必要ではないかと考えるため。
④⑥	レクリエーションの森の存在を初めて知つたが、初心者でも気軽にトレッキングできる場所ですごく良いと思つた。自分の目で見て大切な森や林を守ろうという気持ちを持つことがまずは最初のステップだと考えるため。
<p>「治山事業」への関心が最も高い結果となりましたが、それに続いてほぼ横並びで他の事業へのご関心も高い結果となりました。</p> <p>治山事業に関しては、今年1月の能登半島地震を始め、各地で山地災害が発生していることから、早期復興に向けた取組や、事前の防災・減災に係る取組を進めてまいります。また、その他の事業につきましても、森林の公益的機能の発揮に欠かせないものであることから、今後とも取組を進めてまいります。</p>	

質問10 メールによる情報提供を希望されている方にお伺いします。これまでご提供いたしました情報の量や質、閲覧性等の満足度を以下からお選びください。		
番号	回答	回答数
①	満足している	12
②	やや満足している	5
③	普通	18
④	やや不満	1
⑤	不満	1
計		37

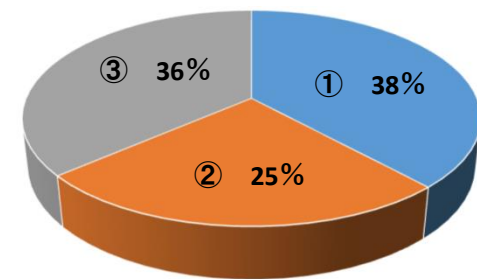


質問11 近畿中国森林管理局のホームページについてお伺いします。当局的ホームページをご覧になる頻度を以下からお選びください。		
番号	回答	回答数
①	月に複数回	9
②	月に1回程度	20
③	ほぼ見ない	18
計		47



※無回答を含みます。

質問12 当局的ホームページでよく閲覧する情報は何ですか。以下からお選びください。		
番号	回答	回答数
①	近畿中国森林管理局の取組に関する情報	21
②	森林・林業における最新の動向に関する情報	14
③	イベント等の開催情報	20
④	その他	40
計		55



※2つ以上選択された方の回答も含めています。



質問13 ホームページを閲覧する際、どのように目的の情報を探しますか。		
番号	回答	回答数
①	トップページ上部のメニューから探す	28
②	サイト内検索から探す	3
③	「注目情報」又は「新着情報」の項目から探す	15
④	キーワードから探す	5
計		51

※2つ以上選択された方の回答も含めています。

質問14 【質問13】の方法で目的の情報を探す際の見つけやすさを以下からお選びください。		
番号	回答	回答数
①	目的の情報をほぼ見つけられる	9
②	目的の情報をおおむね見つけられる	24
③	目的の情報をあまり見つけられない	2
④	目的の情報をほとんど見つけられない	0
計		35

※無回答を含みます。

当局ホームページに関しては、おおむね肯定的なご意見が寄せられました。これからも当局では、イベント等の開催情報や局の取組等の情報を発信し、見やすいホームページの作成に努めてまいります。



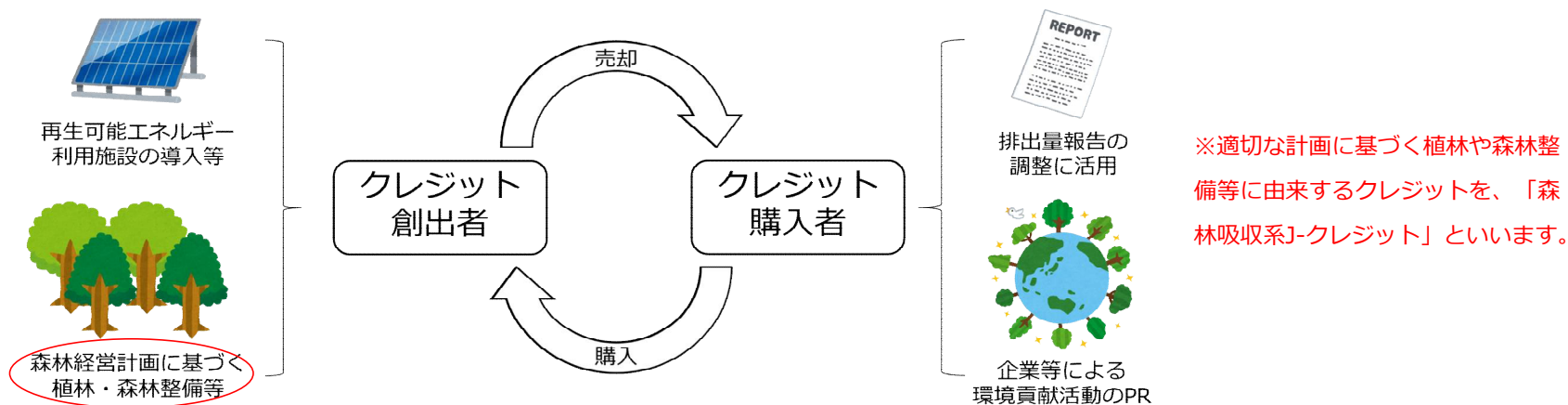
質問17

これまでお送りした冊子や資料の中で、特にわかりづらい表現や専門用語、質問等があれば、記入欄に御記入ください。  
 (特に多かった語句・質問について、解説を記載しています。)

1 J-クレジット

J-クレジット制度とは、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO2等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度であり、「森林吸収系J-クレジット」とは、これらクレジットのうち、森林経営活動や植林活動の取組から生じたものです。

認証されたクレジットは、購入することができ、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の報告書における排出係数の調整やカーボン・オフセット等、様々な用途に活用できます。また、クレジット購入代金は、クレジット創出者に還元され、さらなるCO2の排出削減・吸収の取組や、地域活性化に活かすことが期待されます。



2 木質部材（集成材、CLT、LVL、合板等）

木材は、面の方向によって力学的な強さが異なる「異方性」という性質をもち、これが狂いや曲がりの生じる原因となっております。

このデメリットを解消するために、集成材や合板、CLTなど、様々な木質部材が開発・利用されております。また、これらの部材については、そのまま丸太として利用することが難しい木材を有効活用するメリットもあります。

現在、活用されている主な木質部材について、次のページに取りまとめておりますので、是非ご覧ください。

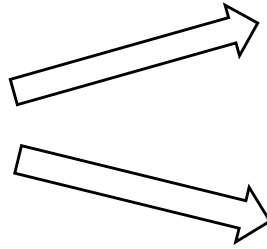
以上、令和6年度国有林モニターアンケート調査結果でした。  
 ご協力ありがとうございました。

# 【参考】 様々な木質部材について

## 1 ラミナと単板



【丸太】

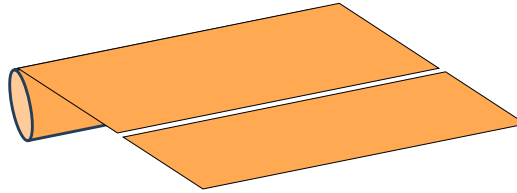


(薄くスライスする)



【挽き板 (ラミナ)】

※厚さ12mm~50mm前後



(大根のかつらむきのように剥く)

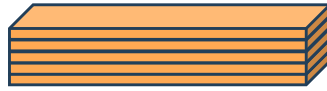
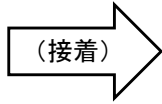
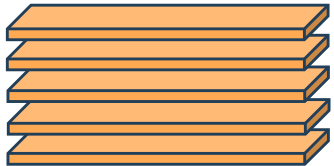


【单板】

※厚さ0.2mm~6mm前後

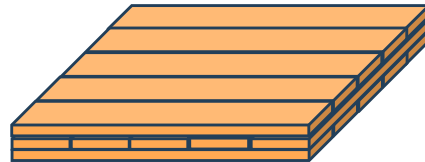
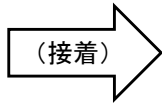
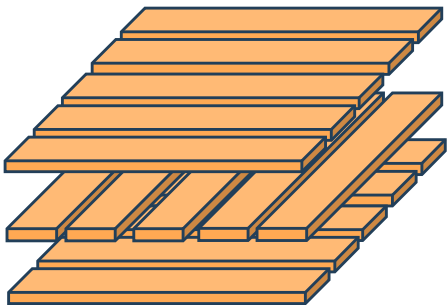
### 【ラミナ由来の木質部材】

## 2 集成材



ラミナを繊維方向に対し平行になるよう接着した部材。無垢材と比べて強度が安定する。主に軸方向の構造材として使用。

## 3 CLT (直交集成材)



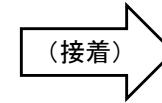
ラミナを繊維方向に対し直交するよう接着した部材。集成材と同様に強度が安定し、大きい面の構造材として使用可能なおうえ、断熱性も高い。繊維方向が異なる厚さ方向のラミナの数「層」、厚さ方向に重ねているラミナ数を「プライ」と呼び、規格を表現する(例:5層7プライ等)。

### 【单板由来の木質部材】

## 4 LVL (单板積層材)

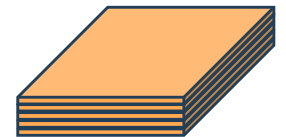
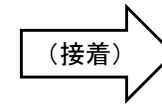
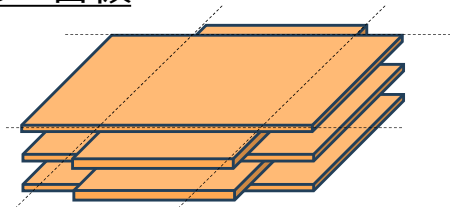


← 同一繊維方向 →



単板を繊維方向に対し平行になるよう接着した部材。集成材と同様に強度が安定し、主に軸方向の構造材として使用。集成材と比べて、比較的近年になってから開発された木質部材である。

## 5 合板



単板を繊維方向に直交するよう接着した部材。強度が安定し、安価に製造可能。内装用合板・構造用合板・コンクリート型枠用合板など様々な製品があり、構造用のものは主に面の構造材として使用される。